

平成25年度 コミュニケーションチーム活動検討会（第3回） 結果概要

1 日時・場所

（日時）平成25年7月5日（金）15:00～17:00

（場所）神奈川県庁新庁舎12階 12B会議室

2 出席委員

足立 功、井上 貞子、坂井 マスミ、高橋 克矢、増田 清美

3 経過

第2回活動検討会での検討により、今年度作成するリーフレットに関しては、パンフレット「かながわの水源環境保全・再生をめざして」の内容を基本として、水源環境保全・再生施策のねらいや取組内容、成果について、一般の方や小学生に親しみを持って理解してもらうための内容とすることが決まった。

このため、リーフレットの内容検討の1回目の会議として、パンフレットの内容について、新たなリーフレット作成上の観点から検討を行った。

4 概要（活動検討会における主な意見）

(1) リーフレット作成の考え方について

- 「森は水のふるさと」よりさらに一步踏み込んだ内容の、親しみやすいリーフレットで、とにかく分かりやすいものを目指したい。
- 「森は水のふるさと」とパンフレットの間をつなぐものとして位置付けたい。
「森は水のふるさと」の次に読むものとしては、神奈川県が何をしているのか、どのような問題を持っているのか分かるものであると良い。
- 「森は水のふるさと」ではあまり県を意識していなかったが、今回作成するリーフレットは県を意識した内容にしたい。
- パンフレットの縮小版として一つひとつの項目を短くすると上手く説明し切れず、分かりにくくなってしまう。パンフレットの重要版を作成するのが良い。

(2) パンフレット「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」の内容について

- パンフレットにある内容でリーフレットに取り入れたいものとして、「施策の必要性についての説明」「保有水源の現状の円グラフ（相模川水系と酒匂川水系で9割）」「県内各地域（西部、中央部、東部）の水利用量の棒グラフを地図に組み込んだもの」「総合的な施策推進のイメージ図」「財源や県民会議の説明」などが挙げられた。

また、これに関連して「Q&A方式にして出来るだけ説明を減らす」「食べるためにも水が欠かせないなど、身近なこととつながりを持たせ子どもに分かりやすくする」「12事業にとらわれずに説明する」「説明は出来る限り省いて図で訴えて

読者にイメージを作ってもらおう」などの意見があった。

- 一方、取り入れる必要のないものとして、「第1期と第2期を分けた説明」「水資源確保の歴史」「水資源賦存量の推移のグラフ」などが挙げられた。

また、これに関連して「第1期の成果と課題は省略しても良い」「12事業のあらしの全ては必要ないので重要な部分を抽出する」などの意見があった。

(3) リーフレットに掲載する写真について

- 県民会議関係の写真は、事業モニターで現場に行っているものや、もり・みずカフェのものを使うのが良い。
- シカの写真は、これまでの経緯や今後の課題を分かりやすく説明出来るのであれば掲載しても良いが、「シカを駆除する」ということのみが子どもに伝わってしまうようであれば検討した方が良い。施策紹介のパネルで使われているような、草を食べているシカが写っている写真の方が良い。
- 教科書に掲載されているような、誰が見ても分かる誤解が生じない写真が必要。

(4) 表紙について

- 表紙はイラストではなく、目を引くようなきれいな写真があると良い。

(5) 仕様について

- 分量は6ページが8ページ。今後の内容検討によりページ数を決める。

5 次回の活動検討会について

第3回活動検討会で出された意見を踏まえ、次回は事務局でリーフレットのたたき台を作成の上で、検討を行うこととした。